

# 良い山造りを目指して小坂担当区班の取組み

小坂営林署 熊崎隆夫

## 1. はじめに

改善計画を推進するうえで高齢化が進み、私たち山の第一線の職場でも非常に厳しい環境にある。

国有林経営上の行財政については理解出来ないまでも、国有林の台所が大変苦しい事は、上司からの説明により、ひと昔前の“親方日の丸”の時代ではないことは、良く理解出来る。

かかる現状の認識から私たちは、良い山づくりのために、作業の改善工夫を更に進める必要があり、無理のない、無駄を省いた合理的な仕事をするよう、皆で頑張ってきた。

署で企てられた計画は、現場第一線で実践する立場の基幹作業職員として、受けて立ってやらねばならず、わが班として、いかに取組むべきか検討し、きめ細かく実行して来た。

(1) 経験に更に工夫をこらし、良い山づくりに励む。

(2) わが職場から絶対災害を出さない。

この二つを目標に、今日まで取組んで来た結果を反省し、更に良い山づくりを目指すために報告する。

私たちが受け持つ現場は、赤沼田、滝上、門坂の三つの国有林で、約 1,800 ha、標高 526 m～1,630 mに位置し、ヒノキ育成に適し、成育も期待出来、第二の小黒川とも言われ注目されている。

それ故に、造林班一人ひとりが責任の重さと誇りをもっている。

## 2. 取組み

(1) 地拵作業

ア 更新期間の短縮効果を目途に、伐採跡地の発生を待って即、地拵を実行する事により、林地の効率を高めることは勿論、植生の繁茂が旺盛になる前に仕上げられ、ひいては、下刈の省力化にも結びつけた。

イ 地拵の見場の良し悪しなどにかかわらず、無駄は極力省き、現地に応じて、植栽本数、間隔を考慮し、筋置き間隔にこだわりなく、画一的な方法を排除した。部分的なガラ場など、植えられない箇所は除外した。

ウ 製品生産事業では、小径立木は中断切りし太めの枝条切断は可能な限り実行した。

エ 条件の整う箇所では、枝条寄焼きを実行し、地拵の省力化と共に、植付、下刈の省力化と野鼠防除をも期待した。

## (2) 植付作業

植付けの適期に合せ、計画的に苗木を受け入れ、完全活着と生長を配慮した苗木の取扱いと植込みに心掛けている。

ア 苗木は生物だから愛情をもって取扱う。

イ 受入れ苗木は、一日も早く植付けてやる。

ウ 現地に応じ、ポット苗、CTM苗の活用で、心にも余裕ある作業をしている。

以上の三点にポイントを置き、短い適期中に完了させるために、一日一人当りの植付け向上目標を決めて、達成した。

## (3) 下刈作業

下刈は最も厳しい作業でもあり、作業地は48年度以降赤沼田国有林が大部分で、現地は急斜面のため、殆んど手刈りによって約100haを6名の班で実行している。

特徴として、カモシカの喰害被害防止を期待し、適期早めの着手をしている。

ヒノキ造林木が、生長を初めた6月上旬から刈払いを行い、生長の止まる秋口には、植生も繁茂し、蘇生することにより、晩秋から翌春融雪後の最も多いと言われるカモシカ喰害の防止と共に、寒風害からの保護を期待している。(図一1参照)

## (4) 安全作業の推進

“良い山づくり”は、健康で安全な職場づくりがあってこそ達成出来る。

「毎日が初心にかえり、基本動作の徹底」を、班の柱にして、TBM、安全懇談会等を通して根気よく実践する事に心掛けた。

具体的には、

ア 個人目標をたて実践する。

(実例) タバコをやめる、安全運転をする、短気を起さない……………

イ 安全標語は、全員が必ず作る。

(実例) 作る苦勞が安全の自覚を促す。主たる作業地に立看板で表示し徹底を図る。休憩小屋、ミニバス等にも掲示し徹底を図る。

ウ 親しみ易い「職場安全ニュース」の発行

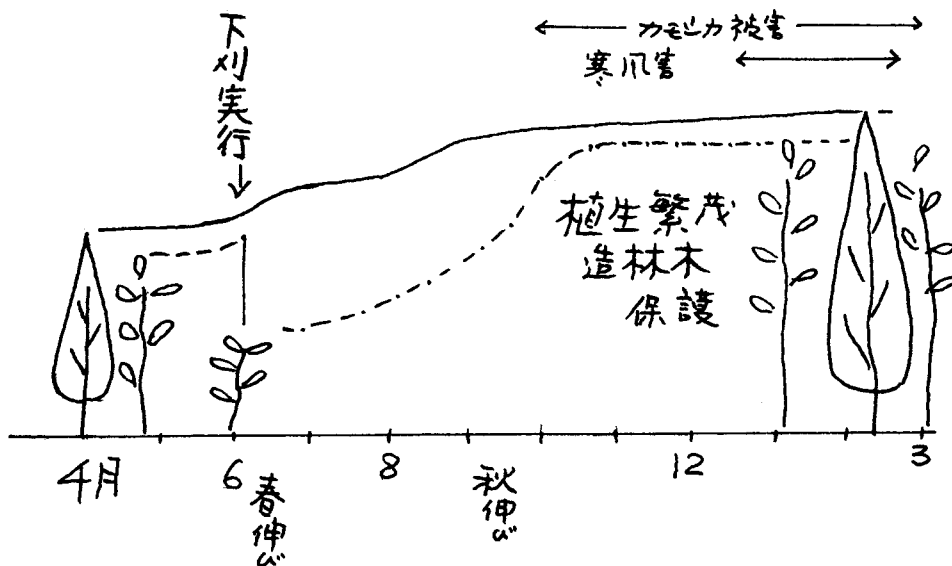
(実例) 主任から、月1回程度、班活動の特色をまとめたマンガ表現で発行される楽しいもの(B4判コピー)

### 3. ま と め

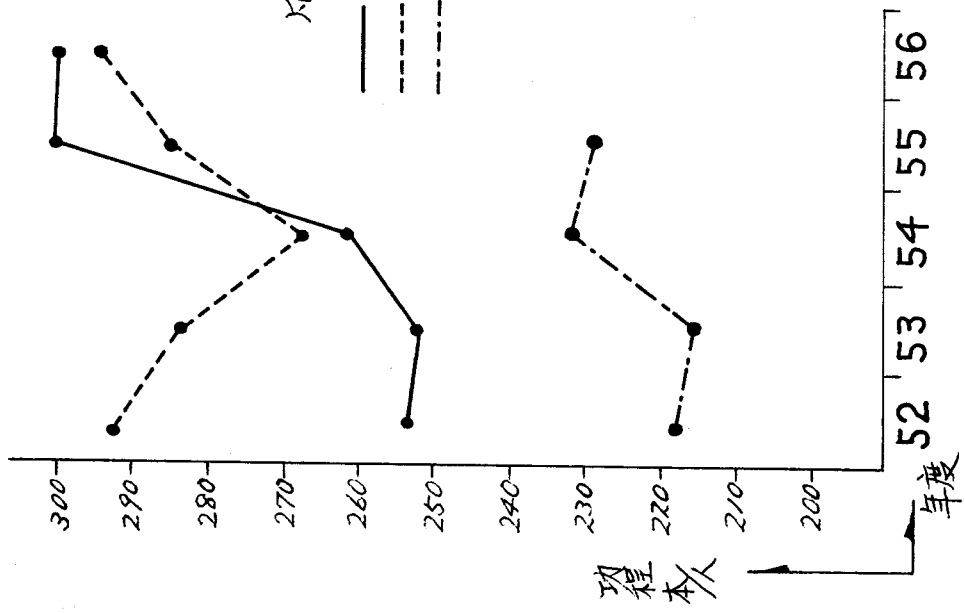
- (1) 伐採跡地発生の翌年度春新植の完了で更新期間の短縮効果をあげ、地拵、下刈の省力効果をあげた。
- (2) 植付け本数は、過去5か年の推移が示すように、1日1人当りの目標本数300本が達成出来た。(表-1参照)
- (3) 活着率は、99.7%に回復出来た。(表-1参照)
- (4) 下刈は、6月上旬から8月中旬まで、6名で102haを完了し、ha当りの労働生産性も着実に向上出来た。(表-2参照)
- (5) 地拵の労働生産性も、全刈筋置で着実に向上出来た。(表-3参照)
- (6) 条件の整った箇所寄焼き地拵も、初期の目的どおり完成し、ha当り6.3人の工期も確保出来た。
- (7) 以上の成果を支える安全作業については、気長に根気よく続けた結果
  - ア 安全について何でも話合える雰囲気育った。
  - イ 自分の安全は自分で守る自覚が定着した。
  - ウ タバコを止めるなど健康管理に留意する度合いが強くなった。
 昭和48年10月以降、9か年間無災害を継続しており、私傷病も減少してきている。

最後に、私たちは一層気持を引締め、災害を出さない事を決意し、先輩が残した「赤沼田の天保林」を励みとして、更に“良い山づくり”をめざして頑張りたい。

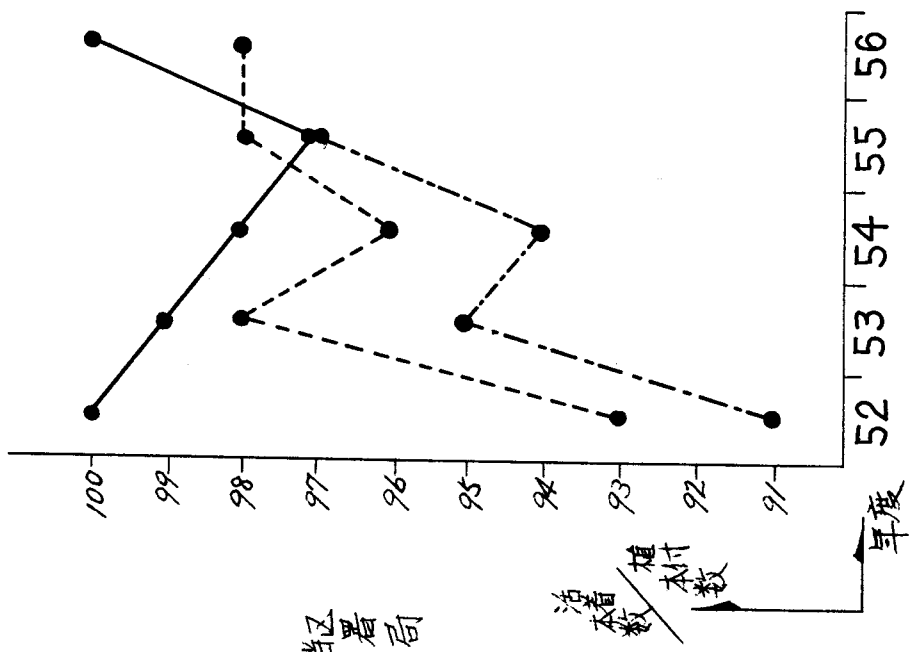
図-1 カモシカ喰害防止を期待した下刈



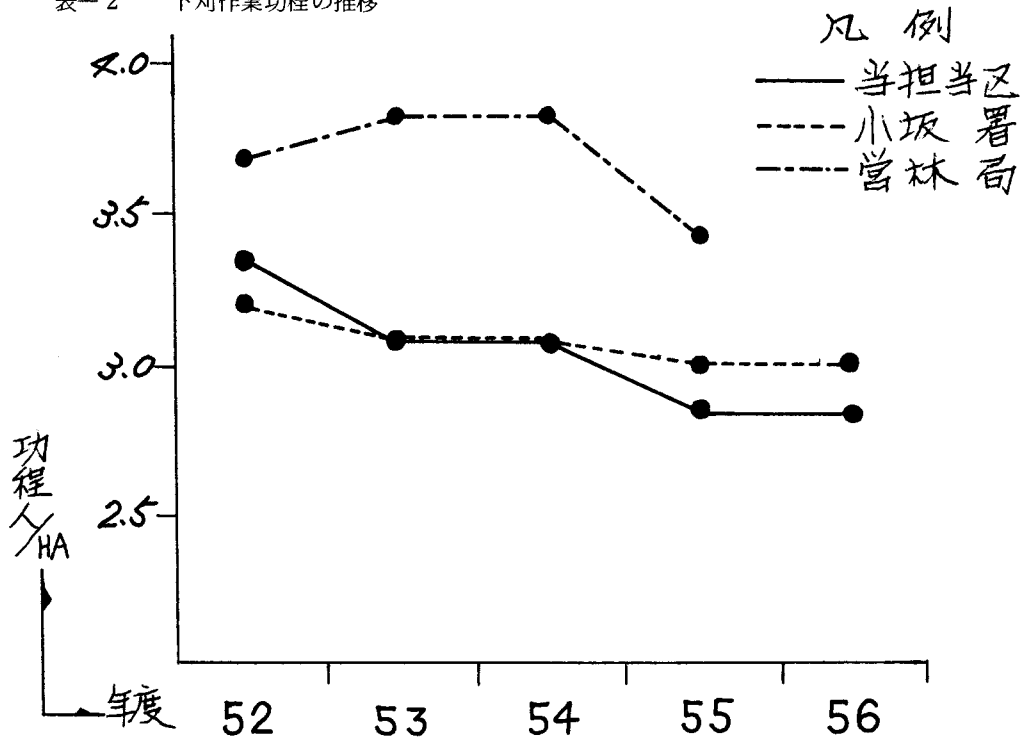
表一 植付作業工程の推移



植付活着率の推移



表一 2 下刈作業工程の推移



表一 3 地拵作業工程の推移

